

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 1 月 22 日 (2015.1.22)

【公開番号】特開 2014-28969 (P2014-28969A)

【公開日】平成 26 年 2 月 13 日 (2014.2.13)

【年通号数】公開・登録公報 2014-008

【出願番号】特願 2013-207921 (P2013-207921)

【国際特許分類】

C 0 8 L 23/12 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/22 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 23/12

C 0 8 K 5/00

C 0 8 K 3/22

C 0 8 J 5/18 C E S

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 12 月 1 日 (2014.12.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透明ポリプロピレンフィルムであって、少なくとも第 1 と第 2 の紫外線吸収添加剤を含み、

前記第 1 の添加剤が、5.0 重量%未満の量でフィルム組成物中に存在する非凝集性の無機系添加剤であり、

前記第 2 の添加剤が、2.0 重量%未満の量でフィルム中に存在する有機系添加剤であり、該有機系添加剤は、トリアジン、ヒンダードアミン、オキサニリド、シアノアクリレート、ベンゾトリアゾール及びベンゾフェノンから選択される有機物質を含み、

前記ベンゾトリアゾールと前記ベンゾフェノンが共にフィルム中に存在する場合、前記ベンゾトリアゾールの前記ベンゾフェノンに対する比が 0.5 を超え、

前記無機系添加剤の平均粒子径が 200 nm 未満であり、

前記有機系添加剤を可溶化するための結合剤を含まず、

広角曇り度 (W A H) が 10 % 未満であるポリプロピレンフィルム。

【請求項 2】

前記無機系添加剤が、1 種又は複数種の無機酸化物及び / 又は金属酸化物を含む請求項 1 に記載のフィルム。

【請求項 3】

前記無機系添加剤が、酸化亜鉛及び / 又は酸化チタンを含む請求項 2 に記載のフィルム。

【請求項 4】

前記有機系添加剤が、フィルム組成物の 1.5 % 未満の量で存在する請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載のフィルム。

【請求項 5】

前記有機系添加剤が、フィルム組成物の 1 . 0 % 未満の量で存在する請求項 4 に記載のフィルム。

【請求項 6】

前記無機系添加剤が、フィルム組成物の 4 . 5 重量 % 未満の量で存在する請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載のフィルム。

【請求項 7】

前記無機系添加剤が、フィルム組成物の 3 . 5 重量 % の未満の量で存在する請求項 6 に記載のフィルム。

【請求項 8】

220 から 350 nm の紫外光の最大透過率において、フィルムが、30 % 以下のフィルムへの入射紫外光しか前記最大透過率の波長で透過しない、請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載のフィルム。

【請求項 9】

前記ベンゾトリアゾールと前記ベンゾフェノンが共にフィルム組成物中に存在する、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載のフィルム。

【請求項 10】

前記有機系添加剤は、前記ベンゾトリアゾール及び前記ベンゾフェノンを含み、前記ベンゾフェノンは、前記ベンゾトリアゾールの結合剤としてではなく、紫外線吸収剤として作用する、請求項 9 に記載のフィルム。

【請求項 11】

前記第 2 の添加剤として、さらに、トリアジン、ヒンダードアミン、オキサニリド及びシアノアクリレートから選択される 1 種又は複数種の有機系添加剤を含む、請求項 9 又は 10 に記載のフィルム。

【請求項 12】

前記ベンゾフェノンがフィルム組成物中に存在しない、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載のフィルム。

【請求項 13】

45 ° 角の光沢度が 80 % を超える、請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載のフィルム。